

子どもの目線で R4.4.28

階段にあるゲートの隣のドア。
いつも開かないドアが気になっていたJくん。ドアノブを回しても開かない…
「なんで開かないの?」「鍵がかかってるんじゃない?」
少し考えて…
「そうだ! 鍵を使えばいいんだ!」
友だちのひと声で鍵作りが始まりました。さあドアは開くかな?



ドアノブの鍵は開かなかったけれど、他にも鍵があるかも!と探しに行く事にしました。



ここにも鍵あった!



色々な形の鍵を作ってもらい、いざドアノブへ! 鍵穴に差し込んでみるけれど開きません。「どうして開かないの?」と子どもたち。

保育士に作ってもらっていた鍵も、いつか自分で描くようになりました。



皆でドアを開けようとします。鍵を見つめる子どもたちの真剣なまなざし。

ドアを開けたい! という気持ちから始まった鍵ごっこ。小さなきっかけが何人もの友だちの興味を引き出し、他クラスのお兄さん、お姉さんに鍵はあるか聞きに行くという大冒険となりました。
興味を持つタイミングはそれぞれです。その時の子どもの声に耳を傾けていく、子どもと同じ目線になり物事を捉えていく「目」を大人が大切にしていかなければと実感した出来事でした。

